体験談②

インターンシップ経験後、思いは膨らみそのまま実習先へ就職

―就職活動ではこの会社が評価軸に―

株式会社マルハニチロマネジメント
総務人事部人事企画課　勤務
小山田誠一さん

2008年３月　横浜国立大学大学院
環境情報学府環境リスクマネジメント専攻修了

■米留学が参加のきっかけ

現在、㈱マルハニチロマネジメント総務人事部人事企画課で主に採用関連の仕事をしています。インターンシップには修士の1年の時に参加しました。インターンシップへの参加は大学、大学院をとおしてこの会社1社だけでした。授業科目ではありませんでしたし、大学院時代だけでなく学部在籍時にも私の周りではインターンシップに参加している人はあまりいなかったように思います。

私がインターンシップに参加したのは2年前のことになるのですけれど、たった2年前のことでも現在と比べると、受け入れ企業の数が随分少なかったように感じます。ですから企業にインターンシップの申し込みをしても倍率が高くてなかなか受け入れてもらえなかったという印象があります。人気の業種が偏るということもあるのでしょうね。

私がインターンシップに参加した大きなきっかけは、アメリカに留学していた時期があって、そこの学校ではインターンシップは授業科目にも入っていたこともあり、とても身近なものに感じていたということがあります。アメリカではインターンシップはとてもメジャーなものですし、その印象が強かったので、帰国してインターンシップに参加したいと思ったのです。

参加先の企業を探している時に、大学のキャリアセンターに行ったらインターネット上でインターンシップ情報が得られる「ハイパーキャンパス」システムを知りました。

企業側の情報は「ハイパーキャンパス」からの入手が最も多く、あとは企業のホームページから得ました。私が疎かったからかもしれませんが、他からの情報源はあまりなかったですね。マルハグループへの申し込みも「ハイパーキャンパス」を使って行いました。

大学側のメニューでインターンシップに参加したわけではありませんでしたので、事前研修、事後のフォローアップ、レポート提出というものはほとんどなかったですね。

■水産関係の食品業界に的を絞る

私が在籍したのは「環境リスクマネジメント学科」というところでしたが、簡単にいうと人間生活が生物の生態系にどのように影響を与えるかということを研究する学科で、その中で私は魚の生態系について学んでいました。もともと食品産業に興味があったのですが、その中でも特に水産業に興味がありました。そこで水産業でインターンシップ受け入れをしている企業を探したところ、唯一マルハグループが募集していたのです。

実習先は株式会社マルハグループ本社（現・㈱マルハニチロホールディングス）の品質管理部でした。

インターンシップの参加期間は2週

は、まず工場の衛生管理などの監査に同行しました。わからないながらもチェックリストに沿ってチェックをし、あとで社員の方とのすり合わせをするというような内容です。それと食品の製造年月などの表示についての勉強もありました。英語論文の要約などというのもやりましたね。また、興味を持った部署について質疑応答という時間を作っていただきました。私は輸出入の営業部署に興味があったので、そちらの部署について質問をしました。

インターンシップの実習タイプの一つにプロジェクト型があると思いますが、その場合、学ぶことの目的がだいたい決まっていますよね。マルハのインターンシップは現場で行う実務実施型ですので、個人の気持ち次第でいろいろな発見、学び方ができると思うんです。それは実際社会に入って仕事を行う上でも同じでした。

■ 就職への意識

私は結果的にインターンシップ先であったこの会社へ就職をしましたが、最初からこの会社へ就職したいという意識を持っていたわけではないんです。

インターンシップの経験はマルハグループ1社だけでしたが、就職活動は食品関連会社、商社などを数十社まわりました。私はずっと食品業界に入りたいと思っていたので、今思うといいか悪いかはわかりませんが、インターンシップ先であったマルハグループが評価の軸になって、他の会社がこの業界の中でどういったポジショニングなのかという視点からみていましたね。

マルハグループのメインの仕事は商社と食品メーカーなのですが、それだけではなくて国内の流通に深く関わりを持っている組織なんです。でも正直なところインターンシップ中に、そこまでの状況は把握していませんでした。そのことがわかったのは、インターンシップ終了後に、漁師さんとか市場の関係者の方にこの会社の話をいろいろ聞く機会があったからなのです。

私は将来的に水産業の生産体制を見直して新体制を作りたいという希望を持っています。このため、商社としてのノウハウを知りながらも、もっと国内の生産・流通現場に近い仕事をしたいと思っていました。生産者の方々の話を聞くうちに私がやりたいことに近い会社なのだということを再認識することができたのです。温かい社風でもありましたし、段々この会社に就職したいという思いが膨らんでいったのです。

■「働く」ことを認識するための第一歩

インターンシップ時は品質管理関連の仕事を体験しましたが、現在の職場では人事関係の仕事をしています。インターンシップの時に体験した職種とは異なりますが、これも大事な仕事ですし、日々充実しています。

私はインターンシップを体験することによって就職先の会社選びをするのにとても役立ったと思います。学生時代にはやはり「働く」ということについての認識が希薄な人も多いと思いますが、私はこの参加体験を端緒にそれが具体的に確かな形として芽ばえたと考えています。これから経験する方は、単位取得のためなどと考えず、自分自身の将来を広げる第一歩だと思いますので、そういう意識をもって積極的に参加してほしいですね。

インターンシップ制度がますます発展していくよう願っています。

間(実質10日)で、1日の実習時間は9時から17時50分までおよそ8時間でした。実際に参加してみて参加期間は最低でも2週間は必要だなと思います。できれば3週間くらいはほしいと参加時には感じました。でも今は逆に受け入れる立場なので、期間が3週間になったら大変だなという思いはあります(笑)。マルハニチロのインターンシップは現場で行うため社員の負担は避けられないので、プログラムは現在もすべて2週間の内容です。

■ 自分次第で発見・学びの機会に

品質管理部でのインターンシップで